

読書感想文コンクール 個人多読・クラス多読表彰について

【読書感想文コンクール表彰】

第49回校内読書感想文コンクールの審査結果を発表します。1年生からは203編、2年生からは192編、3年生からは2編、5年生からは1編、合計398編の応募がありました。教育支援センター運営委員会の教員8名と国語科教員4名による審査・投票の結果、その中から4名の入選作を決定しました。以下にその学生の氏名と作品名を掲げ、榮譽をたたえたいと思います。また、惜しくも入選には至りませんでした。審査の過程で優れた評価を得て、最終選考に残った作品は佳作とし、その学生の氏名も併せてここに紹介します。

最優秀賞（2名）

- 2 S 高田 悠月さん チーズのありかを読んで
「チーズはどこへ消えた？」ジョンソン、スペンサー著
- 5 M 石田 眞子さん 気持ちが少し楽になる心構え 「半分論」村上信五著

優秀賞（2名）

- 1 I 根来 秋帆さん 森を目指して～一人の少年の成長物語～ 「羊と鋼の森」宮下奈都著
- 2 M 奥村 結衣さん 自分の弱さと闘う難しさ 「アンネの日記」アンネ・フランク著

佳作（23名（次の19名及び氏名非公表希望4名））

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1 M 東原 裕真さん | 1 M 水谷 真音さん | 1 E 西井 理梨さん |
| 1 E 西島 勢騎さん | 1 S 暁 樹生さん | 1 I 宮阪 歩花さん |
| 1 C 高野 和奏さん | 2 M 高田 陸音さん | 2 M 西出 健杜さん |
| 2 E 畑中 穂希佳さん | 2 S 榎本 慎也さん | 2 S 中 応介さん |
| 2 I 恒川 向日葵さん | 2 I 牧野 みおさん | 2 C 下野 恵美理さん |
| 2 C 杉山 希さん | 2 C 角 彩世さん | 2 C 橋浦 希佳さん |
| 3 C 當城 優和さん | | |

読書感想文コンクール表彰式

表彰式は1月8日（木）昼休みに校長室にて行われました。その模様は、図書館からのお知らせに掲載の読書感想文コンクール表彰式ページをご覧ください。



図書館からのお知らせ



（図書館からのお知らせ<https://www.nara-k.ac.jp/nnc-library/information/>）



【個人多読表彰】

個人多読表彰は、図書館の統計に基づき、貸し出し冊数が多い学生個人を表彰し、これを機に学生が一層図書館を活用することを期待するものです。なお、表彰された学生には副賞として、図書カードを贈りました。

- 第1位 システム創成工学専攻 機械制御システムコース2年 阪本 靖大さん
 第2位 電気工学科 3年 木村 要一さん
 第3位 電子制御工学科 5年 安藤 耕太朗さん
 第4位 電子制御工学科 4年 TAN KAI QIANさん
 第5位 機械工学科 2年 奥村 結衣さん
 第6位 電子制御工学科 4年 斎藤 琢磨さん
 第7位 情報工学科 4年 稲守 剣人さん
 第8位 物質化学工学科 2年 角 彩世さん
 第9位 電子制御工学科 2年 田邊 絢都さん
 第10位 物質化学工学科 5年 喜多 秀逢さん
 第10位※ (氏名等非公表希望) ※今回は第10位が2名となりました。



[クラス多読表彰]

クラス多読表彰は、図書館の統計に基づき、一人当たりの貸し出し冊数の多いクラスを表彰し、これを機に学生が一層図書館を活用することを期待するものです。なお、表彰されたクラスには副賞として、希望図書の購入ができる権利を贈りました。



- 第1位 システム創成工学専攻 機械制御システムコース2年 (14.3冊/人)
 第2位 物質化学工学科 3年 (11.8冊/人)
 第3位 物質化学工学科 2年 (9.9冊/人)
 第4位 物質創成工学専攻 1年 (9.5冊/人)
 第5位 物質化学工学科 5年 (7.8冊/人)
 第6位 機械工学科 1年 (7.6冊/人)
 参考データ (表彰のルールにより制限した専攻科のクラス) ※
 システム創成工学専攻 電気電子システムコース1年 (8.8冊/人)
 物質創成工学専攻 2年 (8.5冊/人)
 システム創成工学専攻 電気電子システムコース2年 (7.6冊/人)

(※) 専攻科のクラスが上位5位までに3クラス以上入っていた場合、専攻科は上位2クラスに制限し、本科から上位4クラス、合計6クラスとする

全クラスの貸出冊数は「奈良高専図書館 多読表彰ページ」をご参照ください。
<https://www.nara-k.ac.jp/nnct-library/event/tadoku/>



多読表彰ページ

令和7年度

読書感想文コンクールを終えて

《最優秀賞について》

2Sの高田さんは、スペンサー・ジョンソン『チーズはどこへ消えた?』を取り上げています。本書の内容は省略しますが、高田さんは自分自身を、恐怖で一步を踏み出せない小人「ヘム」に投影しながら、恐れを抱きつつも新たな世界に立ち向かっていく小人「ホー」の勇気ある姿勢を目指そうとしています。そして、身の回りの直感的に活動する魅力的な人々を「ネズミ」に、日常にあふれる様々な喜びを「チーズ」に重ね合わせています。このように高田さんは、今回の読書を通して自己を内省し、自身の経験や価値観、そして自分の身の回りの人たちに目を向けています。

この感想文の優れている点は、高田さんの表現したいことが非常に簡明に表現されている点です。あらすじは

ポイントを絞ってまとめられています。そのあらすじを踏まえて、自己の欠点、今後の目標、周囲にある魅力的な物事、最後のまとめへと展開していきます。視点が自分自身を出発点として、周辺へと拡大していき、整った構成と言えます。今回の読書体験により、自己と他者への理解が深まったことでしょう。今後も様々な読書を通して自己理解を深めるとともに視野を広げていってほしいと思います。

5Mの石田さんは、村上信五『半分論』を取り上げています。5年間の高専生活を通じて克服できずにいた自分の問題点に悩んでいたときに、本書に会ったそうです。石田さんは本の内容を自身に当てはめ、自分の課題を深掘りしていきます。そして、その根本的な原因を突き止めたうえで、いかに改善していくかを真摯に考えています。自分の短所に目を向けることは苦痛を伴いますが、『半分論』とその著者である村上氏の力を借りながら、苦痛を乗り越えて成長しようとしているのです。書物には、前へ進む勇気を読者に与える力が備わっているということがよくわかります。

『半分論』は啓発書に類するものです。啓発書は常に一定の人気を集めていますが、読んで終わりにしている（あるいは購入して終わりにしている）人はいませんか。すべての読書について言えることですが、とりわけ啓発書は、その内容を自分のものとして実践に移して初めて意味があります。石田さんの読書感想文からは『半分論』の内容を自分なりに咀嚼し、今後の生活に生かしていこうという前向きな姿勢がうかがえます。読後には晴れやかな気持ちになれる、よい感想文だと言えます。

《優秀賞について》

1Iの根来さんが読んだ本は宮下奈都『羊と鋼の森』です。根来さんと本書の主人公はともに、些細なきっかけによって人生の夢や目標が決まるという経験をしています。このように登場人物との共通点があれば、その人物に感情移入しやすく、より読書を楽しむことができるでしょう。また、本書で取り上げられているピアノの調律師という仕事そのものについても理解が深まったようで、現実に自宅に来てくれていた調律師の仕事に思いを馳せています。自分の知らない世界に触れ、理解を深められることも読書の魅力の一つと言えそうです。

2Mの奥村さんが読んだ本は、アンネ・フランク『アンネの日記』です。日記という性質上、アンネの本心と、戦争の渦中にある生活が生々しく描き出されています。13歳から15歳という感受性豊かな年ごろの少女の言葉は、同年代の奥村さんにとって身に迫るものがあつたことでしょう。奥村さんは、アンネの過去や自分の弱点に真剣に向き合おうとする強さに感銘を受け、勇気と希望をもらったと言います。奥村さんがアンネという他者と出会ったことで、わが身を振り返り、成長しようとしていることがわかります。読書とは、本を通して自己を見つめ、成長し、自己を確立していく営みであるということがよくわかる感想文です。

《全体について》

今年もたくさんの作品が投稿されました。自分なりにまとめようと苦心してくれたことと思います。その努力をより一層価値あるものとするために、いくつか注意点を挙げていきます。まずは漢字・日本語・原稿用紙の書き方の誤りです。誤字や誤用はそれだけで作文の価値を下げることになるので注意してください。これは今後の就職や進学に当たっても最低限求められる力です。次に、あらすじや内容紹介に終始している点です。先述の通り、読書は読んで終わりではありません。書物の内容を自分で理解・分析し、自分の血肉とすることに価値があります。文章全体に一貫性を持たせ、構成を工夫し、自分の伝えたいことを明確に文で表現するという意識をしましょう。

ところで最近、生成AIが急速に生活に浸透してきています。生成AIは非常に便利なツールですが、周知のとおりAIは誤情報も提示します。正しいのか誤っているのか、判断するのはやはり人間です。そして、正誤を判断するためには一次資料を自分で読む力が必要です。一般的に、読書のメリットとして、語彙力、読解力、想像力、集中力、論理的思考力、コミュニケーション力などが鍛えられることが挙げられます。今の社会情勢を踏まえると、生成AIに惑わされない判断力を養うこともメリットの一つと言えそうです。読書で得られる力は、きっと皆さんの財産となるでしょう。皆さんの明るい未来を思い描きつつ、来年はさらなる力作が投稿されることを期待しています。

(国語・松井)